留学を経験して

情報文化学科2年　吉村　洋輝

自分は最後まで中国へ留学に行くかどうか迷っていました。先輩方の留学体験談を聞き、強い好奇心覚え留学へ行きたいと思う反面、自分に中国での留学生活を成し遂げられるのかという不安もあったためです。しかし、留学に行くことのできる機会はとても限られたものであることや自分の視野を広げる良い機会でもあったため留学を決意しました。

中国に到着し寮を初めてみた時、予想以上に綺麗で驚きました。クーラーや暖房機器もあり、部屋は毎日職員の人が掃除してくれるので、とても助かりました。さらに、寮からスーパーまでの距離も近く、日常用品はそのスーパーで揃うのでとても便利でした。

現地では様々な苦労に直面しました。言葉が通じないことはもちろんのこと、ウォシュレットがないことや、トイレに紙を流すことができないという事は知ってはいましたが、実際に目の当たりにすると正直つらいものがありました。特にウォシュレットに依存していた自分にとっては辛い環境でしたが、案外すんなりと順応できました。むしろ、日本ではないという事が実感でき、良い経験になったのではないかと思います。さらに、交通ルールも日本とは違い、日本では青信号になれば横断歩道は安全に渡ることができますが、中国では信号が赤でも右折することが可能であるため、信号が青でも横断報道を渡る際にも注意が必要でした。そのことに慣れず、留学序盤は横断歩道を渡るだけでもかなり苦労しました。

食事にも苦労しました。中国の料理は日本の料理とは違い、油っぽいものや辛いものが多く、見た目は辛そうではないのに食べてみると辛かったりするものもあり、辛いものが苦手な自分にとっては辛く、序盤はお腹を壊してしまうことも多々ありました。ですが、徐々に食事にも慣れていき、自分の好きな料理も見つけることができてからは、食事も楽しみのひとつに変わっていきました。よく仲間と一緒に大学の近くにあるお店へ小籠包と炒飯をよく食べに行きました。そこの料理はとてもおいしく、頻繁に食べに行っていたためにその店の人に顔も覚えられたほどです。

授業面については、現地での授業はすべて中国語で主にパワーポイントなどを活用し、様々な国籍の外国人と一緒に授業が行われました。現地での授業は自分が留学でいちばん不安に考えていたことでもありました。授業の内容として、授業中に先生から質問されることや、発表を行う場面が少なくありません。初めの頃は苦労しました。単純に質問の内容が理解できずに答えることができなかった事もあれば、簡単な内容の質問でさえも慣れない場の空気に呑まれ上手く回答できないことが多くありました。一方、同じクラスの外国人学生は積極的に発言や発表を行っており、その授業に対する姿勢は見習っていかなければならないものだと感じました。ですが、今改めて考え直すと、苦労することも留学での貴重な体験の一つでもあったのではないかなと思います。そして、1ヶ月を過ぎる頃になると授業のペースにも段々慣れることができ、内容も少しずつ理解できるようになると、授業が楽しく感じられるようになりました。同じ寮に住んでいたクラスメイトとは、授業が終わり寮に戻った後に、その日授業で習った単語や内容を使用し、実際に会話したりなどしました。お互いの中国語の上達にとても良いものになったと感じています。その後様々な国籍の外国人の友人もでき、一緒に食事に行ったり、授業でも自信をもって発言することが出来るようになりま

した。最初は想うように自分の伝えたいことを伝えることができずに苦しい思いしましたが、時間が経つにつれ、以前自分が伝えられなかったことも伝えられるようになり、外国人の友人とは辛かった出来事や悲しかった出来事、嬉しかった出来事など様々ことを話すことが出来ました。自分の中国語の上達をその場で実感することが出来たので嬉しかったです。

その他にも現地では、様々な交流があり、まず、日本語を勉強している中国人学生との交流です。自分たちは中国語を教えてもらい、逆に中国人の学生がわからない日本語を教え、互いに助けあうというものでした。

さらに、現地では外国人だけではなく、自分達と同じく北京師範大学に留学をしている日本人学生との交流もありました。その中で、日本人会というボランティア団体のみなさんには大変お世話になりました。日本人会が企画してくれるイベントを通じ、多くの日本人とも仲良くなることが出来ました。その中でも一番大きなイベントが「北京之夜」というイベントでした。このイベントは北京師範大学の留学生がチームを作り、予選を突破したチームが母国の伝統芸能などを披露するイベントです。予選を突破するために自分たちも休日や、夜で授業のない時間などを使い練習しました。練習は外ですることも多く、寒く辛い日もありましたが練習のかいがあり予選を突破し、「北京之夜」で演技を披露する事が出来ました。自分達は鳴門踊りを踊り、本番ではたくさんの観客も見に来ていたために緊張もしましたが、踊りきった後は大きな感動に包まれてとても強く印象に残りました。

留学中の観光もとても印象に残るものでした。北京には万里の長城、故宮、頤和園などといった有名な観光名地も集中しているほか、それ以外でも見どころのある場所が多くありました。観光中は日本にはない建物や雰囲気を感じることができ、本やテレビで見た景色や建物を自分の目で実際に見ることができて感動的でした。途中道に迷うこともありましたが本当に良い思い出となっています。西単や王府井では日本とかわらない大きなデパートも多く存在し、お土産など買うのに良い場所でした。さらに買い物の際には値下げ交渉を行うことが出来るお店もありました。店主と交渉し値下げをお願いするのですが、自分は遠慮してしまい自分の思うような値段で取引することができませんでした。交渉が上手かった友人は服などを格安で購入していましたし、もし、また中国へ行く機会があればリベンジしてみたいと思っています。

今回の留学で、中国へ対する考え方は大きく変化しました。特に中国人はとても親切であるというイメージを強く受けました。道を尋ねると親切に教えてくれましたし、中には目的地まで実際に案内してくれる方もいました。さらにバスの中や地下鉄では積極的にお年寄りに席を譲っていました。

そんな中国での四ヶ月間はあっという間で、本当に充実した四ヶ月間でした。留学前は不安も大きく迷っていた自分ですが、後悔は全くありません。留学へ行く選択をして本当に良かったと思います。授業ので習った所をその日に使い活かす事ができるため、中国語の上達には本当に良い環境であったと思いますし、外国人の友人も多くできました。その中で様々な文化への理解を深めることできたうえに、日本の文化も伝えることもできました。もちろん留学先では苦労することもありましたし、帰りたいと思ったこともありました。ですが、その一つ一つは良い経験でもあり、思い出でもあり、なによりそれを乗り越えることによって人間的に強くなれたのではないかと思います。

最後に、留学を無事に終えられたのは大学の先生方、一緒に過ごした留学メンバー、先輩方そして両親のおかげです。本当に感謝しています。有難うございました。